



<第157回 ほほえみの会 総会>

50人の参加でした。07年度の活動報告、会計報告が行われ了承を得ました。また役員は昨年度に引き続いて現役員が引き継ぐことになりました。そして医師、看護師のお話、また小児がん経験者の生命保険について「ハートリンク共済」の林事務局長が新潟から見えて下さり有意義な総会となりました。

▽「小児血液腫瘍性疾患に対する臨床試験および

希少疾患に対する治療」  
血液腫瘍科 堀越 泰雄 医師

小児白血病、リンパ腫において国内の臨床試験を研究しているグループ・JPLSGがある。JPLSGによる治療は世界でも一番進んでいるといわれる。現時点で最も効果が高いと科学的に証明された治療法が標準治療であり、JPLSGの臨床試験は標準治療とほぼ同義と考えてよい。  
希少疾患についてはプロトコールが決まっていないので、どの治療法が一番いいかエビデンスの検索や国内外への問い合わせ、相談などを行っている。

▽「小児がん化学療法における認定看護師の役割」

北5病棟 加藤 由香 看護師

認定看護師とはある特定の看護分野において熟練した看護ができる者で「実践」「指導」「相談」の役割を持つ。5年以上の実務を得た看護師で希望者は教育課程への選抜試験を受けて、6ヶ月の専門教育を受ける。現在認定看護師は4000人。うち、がん化学療法分野では206人。小児がんでは日本で2人のみ。  
通常の看護師と同じ勤務をしているが、何かあれば相談に乗るので声をかけて欲しい。

▽「前処置を減弱した造血幹細胞移植」

血液腫瘍科 呉 彰 医師

骨髄移植の場合、拒絶反応が問題となる。GVHDはドナーの骨髄が患者を攻撃する。一方で、ドナーの骨髄が白血病細胞や腫瘍細胞を攻撃するGVL効果もある。このメリットを生かしたのが「RIST」という方法。「RIST」では抗がん剤や放射線を減らすことができ、晩期障害を防ぐことができる。GVL効果が得やすい慢性骨髄性白血病などや非腫瘍性疾患の場合には効果が期待できるが、進行期の白血病などで腫瘍量が多いと考えられる場合には、うまくいかないケースもある。

▽ 特別講演 「小児がん経験者が入れる生命保険」

講師 ハートリンク共済  
林 三枝 事務局長

小児がん経験者は入れる保険がない。林さん自身、子供が小児がんを経験。病気後、数年経つと保険のセールスマンはノルマを達成させるために入れますというケースがあるが、本社ではNG。何とかできないかと保険会社に掛け合い、協力してくれる会社もあったが結局、金融庁で許可が出ない。そこで、共済の形で保険を立ち上げた。  
医療保障は「本人プラン」と「家族プラン」がある。「家族プラン」は家族全員を保障するのではなく、一人一人が加入するもので小児がん経験者が入る「本人プラン」だけでは共済としてリスクが高いため、「家族プラン」で加入者を増やしたい。家族プランには18歳から70歳までの方ならどなたでも加入できるので是非入ってほしい。

▽ お知らせ

会費の納入をお願いしたところ、多くの方から納入をいただきました。ありがとうございます。また、未納がある方には、先月ご案内を同封しましたが、一部間違いがあったようです。失礼しました。よろしくお願ひします。

次回 は 8月 10日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k\_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>